

結晶母

2009 年 2 月号

発行：テラ・ルネッサンス

発行日：2009 年 2 月 1 日

「結晶ができる時、最初に生まれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。

ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい。

そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」

こんな思いから名付けられたテラ・ルネッサンスの機関誌『結晶母』も、2002 年の第 1 号発行からはや 7 年目。今後も、『結晶母』、そしてテラ・ルネッサンスへの、みなさまからのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



上：ウガンダの紛争を考える世界同時開催イベント「Gulu Walk」に参加するウガンダ事務所のスタッフと受益者

下左・下右：グル県のルコディ IDP（国内避難民）キャンプの様子

Contents

- p.2 入会キャンペーンのお願い
- p.3 カンボジア・ラオス事業報告
- p.4 ウガンダ事業報告
- p.5 知識の実
- p.6 あくていびてい・れぼーと
- p.7 ふえいす to ふえいす
- p.8 てらるね手帳

大切な“あの人”と一緒にテラ・ルネを
応援
～入会キャンペーンを始めます～

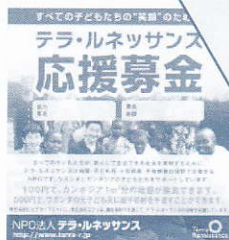
テラ・ルネッサンスでは、テラ・ルネ
ッサンスを応援して下さるサポータ
ー（ファンクラブ会員）を4月末までに
800名を、全国各地に増やす「入会キャ
ンペーン」を実施いたします。（ファン
クラブ会員：テラ・ルネッサンスを応援
する一口1,000円/月の会員制度）

テラ・ルネッサンスは活動資金の7割
を会費・寄付で運営しております。会員
が増えることで、安定的にウガンダ、コ
ンゴ、ラオス、カンボジア、そして日本
での平和をつくりだす事業を拡大する
ことができます。たとえば、ファンクラ
ブ会員が一人増えることで、ウガンダの
子ども一人のマラリアの治療費を提供
できます。1,000円の可能性は無限大で
す。

会員の皆様へ、2月中旬に「入会キャ
ンペーンキット」をお送りさせていただきます。
中には、テラ・ルネッサンスや
ファンクラブ会員制度についての説明
書類、お知り合いやご友人に、テラ・ル
ネッサンスをご紹介しやすいパンフレ
ットを新規に作成し、同封しておりま
す。

大切なあの人へ、「一緒に、テラ・ル
ネを応援してみない」と一声をおかけい
ただけないでしょうか。ご協力のほど、
よろしくお願い申し上げます。

●4月末までに、ファンクラブ会員800名増へ
設立以来、私たちは会員の皆様の支援で、
ウガンダ、コンゴ、カンボジア、ラオスそして日本で、
多くの活動をして頂きました。
更に充実した支援活動をしたい。私たちの
目的を実現するため、積極的に広報活動をし
たいと強く願っており、そこで2月中旬から
入会促進キャンペーンを始めます。テラ・ルネの輪
を皆様の周りに広げて頂いて頂こうね。優し
くても世界に届けるために、お知り合いをご紹介下さい。
NPO法人テラ・ルネッサンス 鬼丸用箋
理事長 鬼丸昌也



募金箱を置いてもらえませんか??

テラ・ルネッサンスでは、企業・店舗様に募金箱の設置をお願いしております。
募金箱が置いてあるだけで、店舗を訪れたお客様が、おつりをポンっと募金箱に入
れてくださいます。何か社会の役に立ちたいと思っている方がたくさんいらっしゃるの
に、気軽に参加できる方法が少ないのが日本社会の現状です。

結晶母をお読みくださっているあなたが、企業や店舗の責任者でしたら、募金箱
を置いていただけないでしょうか？また、行きつけのお店がある方は、テラ・ルネ
ッサンス募金箱の設置をお勧めいただけないでしょうか？800個の募金箱を全国
各地に、京都から送り届けたいと願っています。よろしくお願い申し上げます。

詳しいお問い合わせは、テラ・ルネッサンス事務局（電話：075-645-1802）まで。

【ラオス】不発弾撤去 & 中学校建設地視察報告：ラ「オス」と「オス」口のシンクロ

「ドーン!!」車から降りた瞬間でした。2008年12月3日、ラオス・シエンクアン県にある、テラ・ルネルネッサンスが提携する不発弾撤去団体 MAG の不発弾撤去現場。山間の村に響き渡った大きな音に驚く私たちに、MAG のスタッフは、近くの撤去現場で不発弾が爆破処理されたと教えてくれました。この日は、不発弾撤去からその後の中学校建設まで一貫してご支援くださるブレマ株式会社代表取締役の中川様とスタッフの宮崎様がシエンクアン県の現場を視察していただきました。 [ブレマ株式会社 http://www.prema.co.jp/](http://www.prema.co.jp/)



▲カンパニオン村の子どもたちと中川代表取締役

ラオスはベトナム戦争中、アメリカ軍によって1964-73年の間に50万回以上(!)の爆撃がおこなわれ、世界一の量といわれる200万トンを超す爆弾が落とされました。この9年間には、8分に1度、米軍機1機に積まれた爆弾が落とされた計算になり、現在でも多くの不発弾が残っています。中学校建設予定地のシエンクアン県ノンヘット郡カンパニオン村も、ベトナム国境に近いことからアメリカ軍による激しい空爆を受けました。

この中学校がカバーするのは周辺の15村で、人口4499人、約700家族のモン族が生活しています。2000年に小学校と保育園用教室ができましたが、中学校がないために、小学校や保育園の一部を、中学生用の教室として代替してきました。しかし、毎年中学生は増えており、すべての生徒を受け入れるだけの十分な教室がありません。そこで視察後まもなく不発弾撤去が開始され、撤去後には中学校建設に移り、2009年春の完成予定です。



▲モン族の村にあるクラスター爆弾の親爆弾で作られたフェンスと中川代表取締役

くしくもこの日、12月3日、ノルウェー、オスロで開かれたクラスター爆弾の使用・製造・保有を禁じ、被害者支援や不発弾処理を定める「クラスター爆弾禁止条約(オスロ条約)」の署名式で、日本を含む94カ国がこの条約に署名しました。まさにクラスター爆弾が雨あられのように落とされ、多くの人々が傷ついてきたラオスの状況を見たあとで、このニュースは、暖房のない、凍えるようなゲストハウスの部屋でさえ、私たちの心をととても暖かくしてくれました。(えずみ)

【カンボジア】貧困地域の村へトラクターとポンプを提供

東京八王子ロータリークラブ様より、50周年記念事業として、2007年に村落開発支援を実施したバタンバン州バナン郡の2村、チャンホー・スヴァイ村とドーン村の住民組織にトラクター2台ずつと水汲み用ポンプ1台ずつをそれぞれご寄附いただきました。また、11月の視察時には、チャンホー・スヴァイ村へ文房具も提供くださいました。トラクターとポンプは、住民組織によりレンタル制度が設立され、登録されたメンバーは、農作業や物資、人の運搬に使うため安くレンタルできます。村人たちは自分たちで管理し、借りられるトラクターとポンプをととても喜んでいました。(えずみ)

東京八王子ロータリークラブ <http://www6.ocn.ne.jp/~thrc/>



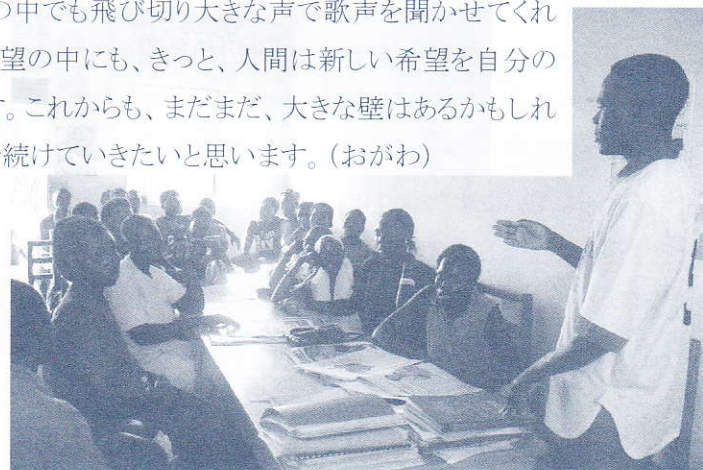
▲トラクターを囲む村人と視察団の皆様

【ウガンダ】38 名の元子ども兵たちが自立に向けて再出発

紛争の続くウガンダ北部でも、20 年を経てようやく治安が安定してきました。最終的な和平合意には至っていませんが、これまで 10 代のほとんどを兵士として戦わされてきた元子ども兵たちの多くが村々に戻ってきて、新たな生活を始めつつあります。当会で受け入れてきた元子ども兵も 90 名を超え、1 期生、2 期生に引き続き、3 期生 38 名が今月から自分の力で収入を得始めています。多くの 3 期生は赤ん坊、幼児を抱えながらの社会復帰で困難なことも多々ありますが、受け入れ当時に比べれば、みんな、明るく前向きに自分の将来を考えるようになっています。ただ、各自、置かれている状況は様々で、助けてくれる家族や親戚がおらず、自分ひとりでがんばっていかないといけない子や、差別や偏見を恐れ、生まれ故郷ではない土地で収入向上に励む子など、各自が社会復帰を果たし自立していくペースは様々です。現場のスタッフたちもできるだけ個別に面談や家庭訪問などを実施し、それぞれに合った形で自立をサポートしていければと考えています。

(写真は 3 期生の元少女兵たち。それぞれが今月から収入を得る為の計画を全員で意見交換している様子)

3 期生の中で最も自立が困難な受益者は失明した元少女兵で、彼女は今だに過去のトラウマや現在の自分の状況に悩んだり、苦しんだりすることがあります。ただ、彼女にとっては歌を歌うことが一番の希望になっており、毎週金曜日の歌をクラスでは、いつも笑顔で、クラスメイトの中でも飛び切り大きな声で歌声を聞かせてくれます。彼女を見ていると、何もかもが終わってしまったような絶望の中にも、きっと、人間は新しい希望を自分の中に見出していくことができる存在なんだと、感じさせられます。これからも、まだまだ、大きな壁はあるかもしれませんが、彼ら、彼女らの可能性を信じて私たちも支援活動を続けていきたいと思います。(おがわ)



【ウガンダ】和平の失敗

紛争が始まって 7 年経った 1993 年に初めて政府軍と LRA(「神の抵抗軍」と呼ばれる反政府武装組織)の間で、ベティ・ビゴンベという女性を仲介人にしての和平交渉が行われました。しかし、その翌年 1994 年に交渉は決裂し、以後 LRA は残虐行為を再び繰り返し、200 人を虐殺、村の襲撃、そして約 2 万 6 千人以上もの子どもを拉致し、強制徴兵をさせていました。2005 年の時点で、紛争による国内避難民が北部だけで 180 万人に及び、テラ・ルネッサンスが活動を行っているグル県でも人口の約 9 割が国内避難民キャンプでの生活を強いられました。

2006 年に初めて南スーダン政府の仲介による和平交渉がスーダンのジュバで行われ、同年の 8 月には政府軍と LRA が停戦に合意をし、これ以降ウガンダ北部の治安は良くなっていました。

2005 年に 180 万人いた国内避難民は 2008 年の 7 月時点で 48 万人に減り、グル県では 2006 年 2 月の時点で 46 万人、人口の 87%が国内避難民でしたが、2007 年の 7 月には約 45%にまで減少しました。しかし逆に言うと、未だに人口の約半分が国内避難民であるということです。和平交渉が始まった 2006 年に停戦合意が成されていたのですが、その後 LRA は南スーダンやコンゴ民主共和国、中央アフリカで断続的に襲撃を行っていました。

昨年 2008 年には政府と LRA の和平交渉が再び行われようとしていましたが、2 度に渡る呼びかけにもかかわらず LRA 指導者のジョセフ・コニーは現れず、交渉は失敗に終わりました。(こやま)

テラ・ルネッサンスの事業に関する国際情勢の解説をする「知識の実」コーナーでは、前回のクラスター爆弾禁止のオスロ・プロセスの解説に続き、今回はコンゴ民主共和国（以下、「コンゴ DR」と記）の情勢と、コンゴ DR でのテラ・ルネの活動をご紹介します。

コンゴ DR って？

コンゴ DR はアフリカのほぼ真ん中に位置しています。この国はたくさんの天然資源に恵まれ、金、ダイヤモンド、タンタル、銅、コバルトなどが取れます。そして、これらの資源の埋蔵量は世界でもトップクラスとされています。金やタンタルは携帯電話や様々な電子機器を作る際に使用されており、もちろん私達が使っている携帯電話にも使われています。



どうして資源があるのに貧しいの？

たくさんの資源を持ち、豊かであるべきはずの国コンゴ DR は、今、世界で最も貧しい国の一つです。その原因は国内で起こっている「紛争」。国民のために使われるはずの資源は紛争の資金源として充てられています。資源を先進国に売ったり、また武装勢力が国内にある資源の利権を得たりし、そこから得た資金で武器を購入しています。武器がある限り戦いは続きます。

コンゴはかつてベルギーの植民地でした。1960 年に独立を果たしましたが、独立後も政治情勢は常に不安定で、独立の 5 年後にジョセフ・モブツが当時のルムンバ首相を殺害し、クーデターを起こして政権を奪いました。1998 年にこのモブツ政権を打ち倒すために紛争が勃発しました。この紛争は 2003 年まで続き、この 5 年間の紛争は別名「アフリカの世界大戦」とも呼ばれています。

この紛争で、300 万人以上が命を奪われ、20 万人以上が難民となりました。そして駆り出された子ども兵の数は 3 万人以上だと言われています。2003 年に和平合意が結ばれましたが、反政府ゲリラ軍はそれを無視し、再び闘争を行っています。



▲南キブ州で元反政府軍の「マイマイ」の子ども兵たち（撮影：GRAM）

テラ・ルネはコンゴ DR で何をしているの？

当会は 2008 年度からコンゴ DR にある現地 NGO の GRAM と提携し、事業を開始しました。GRAM はカロンゲ地区での元子ども兵や社会的弱者などに対する支援を行っていましたが、当会と提携のプロジェクトが行われるまでの 1 年間は十分な資金がありませんでした。そのため、反乱軍から解放された元子ども兵や反乱軍の襲撃により、親や親戚を亡くした子ども達、性的虐待を受けて夫から見放された女性達が支援を受けることができないままの生活を強いられていました。

当会はカロンゲ地区での元子ども兵と社会的弱者や女性への社会復帰を行うための簡易施設の建設資材の提供などを行い、住民との協力で建設を完成することができました。訓練施設では木工大工の訓練やミシンを使った洋裁訓練を行い、42 名の受益者が訓練を修了しました。修了生はみなとても嬉しそうに終了証を受け取っていました。

また、2009 年度には同地での施設建設（グローブハウスⅢ）の建設支援を計画しています。更に多くの笑顔や希望がここから生まれるよう努めていきます。（こやま）



▲訓練を無事に終え、修了証を手にした受益者と現地職員の小川真吾

2008年12月5日

Child Soldier -What were you doing at 13 years

小雨の降る12月5日(金)。LAB.TRIBEという小さなクラブへ続く階段は、開場を待つ人の列ができていました。来場者の中には、長野や福岡とから来られた方も！子ども兵をテーマにした今回のイベントのトップを飾ったのはThree Piece Of Communicationという2人組。メンバーのsolaさんが、ウガンダの元子ども兵が作成したペーパービーズを身につけてステージに登場して下さりました。



そして、テラ・ルネッサンス理事長の鬼丸、ウガンダ駐在代表の小川、FUNKIST ボーカルの染谷西郷さんのトークライブがありました。これまでどのような思いを持って、それぞれ活動を行ってきたのかをお伺いしました。

最後はFUNKISTのライブ(写真上)。会場は温かな歌声に心を寄せ合い、優しい空気に包まれました。またイベント中、テラ・ルネッサンスのブースでは、多くの方が書籍やペーパービーズ商品を手にとってくださいました。今回のように楽しく温かい空間の中で、たくさんの方の思いが重なり合い、繋がってゆくイベントを今後も企画していきたいと思えます。

出演者の皆さま、ご来場くださった皆さま、ご協賛・ご後援くださった皆さま、本当にありがとうございました。(うえはら)



2008年12月20・21日

One World Festival

師走に開催されたワン・ワールド・フェスティバル。来場者は20日(土)、21日(日)で述べ12,300人！細かい雨がぱらついた時もありましたが、なんとか天気も持ち、大変暖かい2日間でした。

屋内の2階、活動紹介ブース(写真上)では新顔のテラ・ルネ漫画が初登場。読みやすいということで大好評！(漫画の案内はp.8をご覧ください。)

全ブースを回ってどこに募金をしようか迷っていた中学生の女の子が、「決めました！」ってテラ・ルネに募金してくれたという微笑ましいエピソードもありました。こういうのって金額がどうこうじゃないですね！

屋外の民族料理ブース(写真下)では、前回の結晶母でもご紹介した「クイティウ」と「ノムパンチェン」、「ウガンダコーヒー」を販売しました。2日間で売り上げのトータルはクイティウが149杯、ノムパンチェン209個、コーヒー196杯でした。目標にはちょっと届かず。ですが来年の目標ができました。

毎度のことながら、ブース出店の際にはテラ・ルネのスタッフだけではなく、ボランティアさんが手伝ってくれています。そして、イベントはご来場くださるお客様に支えられて成り立っています。テラ・ルネは今後も、「啓発」のツールであるブース出店を行っていきますので、どこかのイベントでテラ・ルネの文字を見かけたときは、ぜひお立ち寄りください。(あおき)



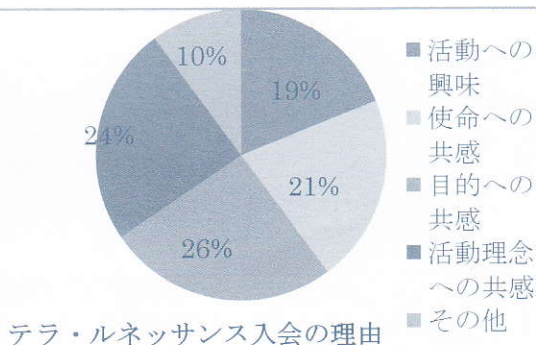
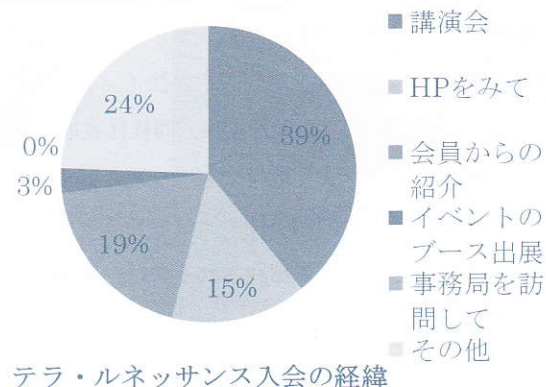
去年9月に会員アンケートを実施しましたところ、たくさんのご回答をお寄せいただきました。前号の結晶母では会員様からの声を取り上げさせていただきましたが、今回はアンケートの集計結果の一部をお知らせします。

集計結果より、入会経緯(図1)は「講演会」を訪れたことだという方が最も多く、3分の1にのぼりました。また「その他」と答えられ方も多く、その中には『友達に紹介された』などの口コミをきっかけとされた方もおられます。

今後のテラ・ルネの発展に向け、会員様と事務局スタッフが顔と顔の見える関係を築いていくために、事務局やイベントへの訪問を促していくことが必要だと感じました。

また、入会理由(図2)としては全ての項目にほぼ均等に回答が得られていましたが、入会経緯で「講演会」と回答された方は「目的への共感」強いのに対して、講演会以外と回答した方は「活動に興味」を持っていた方が多いようです。

紙面の都合上ここでは集計結果の一部しか報告できませんが、アンケート結果がこれからのテラ・ルネの活動の活性化につながるよう、しっかり生かしていきたいと思ひます。



※アンケートの受付は終了いたしました。ご協力本当にありがとうございました。(かしわばら)



小川真吾 OGAWA, Shingo

2005年1月よりスタッフとして
ウガンダ事業担当。

皆様、いつも大変お世話になっております。ウガンダ事業を担当しております小川と申します。普段はウガンダに駐在し、元子ども兵の社会復帰センターの運営やウガンダ・コンゴでの事業を進めています。現場では水や電気がなかったり、虫に噛まれたりと大変なこともありますが、18名の現地スタッフに支えながら活動に励んでいます。

また、赴任した4年前には、人と目をあわすこともできなかった元子ども兵の受益者たちが、今では自分で収入を得て生活できるようになっています。このような受益者の成長が私自身にいつもエネルギーを与えてくれています。現地ではまだ最終的な和平合意に至っておらず、元子ども兵や現地住民たちにとっては大変なことも多いですが、現場にいるスタッフ一同、できる限りの支援活動を続けていきたいと考えています。今後ともご支援ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。



石川綾 ISHIKAWA, Aya

2008年4月よりインターン
として募金箱事業担当。

はじめまして。現在、募金箱事業を担当している石川です。テラ・ルネの雰囲気はとてもアットホームで、お昼ご飯は毎日自炊してみんなで一緒に食べているので、お腹の中からお互いを理解できます。困った時があっても、周りのサポートに頼ることができるため、とても仕事がしやすい環境であり、また自分が成長できる場だと思います。

私の担当する募金箱事業は資金調達の分野なので、支援者の皆さま、またそこから広がるネットワークに支えられています。皆さまの思いを現場につなげ、事業の様子を分かり易くお知らせできるように心がけています。2009年もテラ・ルネと共に飛躍していきたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。

てらるね手帳

テラ・ルネッサンスがマンガに！

2008年12月に、テラ・ルネッサンス関連では3冊目の書籍となる「マンガ テラ・ルネッサンスⅠ（価格：1260円）」が、株式会社インフィニティ様（本社：広島県広島市）より発刊されました。きっかけは理事長と田原実様（同社代表取締役）の出会いからで、08年2月には漫画家の西原大太郎様とウガンダまで取材に来てくださいました。約1年かけて制作されたマンガによって、私たちが「子ども兵」問題と関わってきたことを、丁寧に紹介してくださっています。特定のNPOがマンガの単行本として紹介されるのは、全国的にも初めてのことになります。

「社員さんに読ませたい」、「地域の子どもたちに配りたい」と、名備運輸株式会社様（代表取締役：丸川靖彦様 本社：愛知県小牧市）が60冊、ピスタワークス研究所様（所長：大原光泰様 本社：高知県高知市）が50冊をご購入してくださるなど、その輪が全国各地に広がってきています。

ぜひ、テラ・ルネッサンスのことを家族や友人に伝えたい、地域の子どもたちに「関心を持つ大切さ」を伝えたいという時には、このマンガをぜひプレゼントしてあげてください。きっと分かりやすく大切な人の心に、何かが伝わっていくと思います。

お問い合わせは、テラ・ルネッサンス事務局（電話：075-645-1802）までお気軽にどうぞ。



推薦文 てんつくマン

「今、やっている活動は、お金を払ってでもやりたいんです」と言っていた鬼丸昌也。すげーヤツです。

出版元（株式会社インフィニティ様）からの紹介文

凶悪犯罪、いじめ、汚職や不正の蔓延する閉塞した社会の中で、疲弊し、生きる気力を失いつつある現代の日本。世界では、いまだ多くの紛争地域で殺戮が繰り返され混乱と貧困に喘ぐ弱者の姿が目に見えます。このような混迷した時代の中、21歳の大学生の時に、資金も人脈も何もない中、「テラ・ルネッサンス」を立ち上げ地雷除去や子ども兵の支援を始める鬼丸昌也さん。また、ウガンダで兵士として戦場に立ち、身も心も傷つきながらもテラ・ルネッサンスの支援や日本の子どもたちとの交流を通じて他者を思いやり、未来を創るために前に進んでいこうとする子ども達。ここから学べるのは、人は、どんな厳しく難しい状況の中であってもそれを乗り越えていく『生きる力』を持っているということ。そんな大切なことに気付くことのできる一冊です。

【ご報告】

社団法人倫理研究所の「第12回地球倫理推進賞（国際活動部門）」に、16あった応募団体の中からテラ・ルネッサンスが選ばれました。受賞式は3月29日（日）午前10時より、倫理文化センター（東京都千代田区）で開催され、理事長の鬼丸による講演も行なわれます。

地球倫理推進賞とは・・・

「地球倫理」とは、家庭から、地域から、一人ひとりが立ち上がり、小さな実践を積み重ねて、日本ひいては世界をよくしていこうという提案であり、広く仲間を募る活動です。倫理研究所は、地域開発、環境、教育、文化、医療等の各分野で、グローバルな視野に立って行動を起こし、広く生命環境の改善に貢献している団体（または個人）を毎年顕彰しています。後援は文部科学省・産経新聞社・全国民間ラジオ局35社。

詳しくは倫理研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.rinri-jpn.or.jp/index-s.html>

【編集後記】（事務局：樋口裕城）

今回で2度目の結晶母の編集となる、インターンのひぐちです。原稿がなかなか期日に集まらず、また直前での変更点が出てくるなど、なかなか苦勞の多い編集の作業ですが、楽しみながら仕事をしています。それは事務所の雰囲気のおかげで、事務所では真面目な話も、そしてもちろん笑える話もしながら、良い環境で仕事ができます。結晶母から少しでも事務所の楽しい雰囲気を感じてもらえたらと思います。

【編集・発行】

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105

Tel/Fax：075-645-1802

E-Mail：contact@terra-r.jp

URL <http://www.terra-r.jp>

